



第2回特別支援教育研究会

11月4日、河口湖南中学校会議室において第2回特別支援教育研究会が開かれました。



今回の研究会では「インクルーシブな授業・学級作りのヒント」と題し、普通学級における障害児教育のあり方について学習を進めました。

講師は、都留文科大学初等教育学科専任講師の堤英俊（つつみひでとし）先生です。大学講師でありながら現役の東京大学大学院博士課程専攻の学生であるという先生の、特別支援学校教師時代の経験を入れながらのお話、参加された先生方はそのすべてを聞き落とすまいと一生懸命メモを取っていました。PDD、LD、ADHD の子ども達の脳に起きていると思われる現象（特徴）では、実際にLD児の物の見え方がビデオで紹介されました。「二重に見える・文字がばらつく・文字の一部が動く・色が載って絵に見える」など、本人の話をもとに構成された映像は衝撃でした。そのように見える子どもが統計的には、30人学級に2～3人はいるというのも驚きでした。また、発達障害を持つ子ども達を「視覚化・構造化・協同的学び・同化と異化」のヒントを基に具体的な指導へと繋げていくお話は、子ども達やクラスに当てはめ、うなずけるものばかりでした。

参加された先生方からも

- ・インクルーシブ教育の必要性を再認識した
- ・「学びの共同体」について詳しく学習したい
- ・時間をかけてもっと話を聞きたい

などの感想が寄せられ、目の前の子ども達に真剣に向き合う思いが伝わってきました。



支援員研修会を実施しました

17日に船津小学校で行われた支援員研修には富士吉田市や都留市からも参加をいただく中、29名の先生方が「障害をもつ児童生徒の理解とその対応について」学びました。講師は健康科学大学准教授の瀧口綾先生です。先生には毎年、カウンセリング講座等でお世話になっています。

「個の支援」という大変な立場にしながら研修の機会の少ない先生方と、「発達障害についての基本的な理解」「子ども達に身につけさせたいこと」「支援する側として望ましい接し方」など、具体的なお話を聞いたり演習に取り組んだりしながら学習が進みました。「スモールステップ・褒めること・わかる声かけ」が支援の最大要素であることを忘れずに、日々の実践を頑張ろう…事後アンケートからの先生方の声です。

